令和元年度　第２回博物館協議会　議事録

日時：令和２年２月４日（火）13：30～15：00
場所：八戸市庁本館３階　第１委員会室

出席委員（９名）

議長　新原　秀郎　（会長）
工藤　竹久　（副会長）
加藤　眞人
有馬　克美
川口　桂子
滝尻　善英
田端　良子
鈴木　規夫
鈴木　善美

事務局出席者（８名）

古里　淳　（博物館館長）
竹洞　一則　（資料館館長）
下村　恒彦　（博物館副館長）
船場　昌子　（博物館主査兼学芸員）
野沢　江梨華　（博物館主事兼学芸員）
山野　友海　（博物館主事兼学芸員）
落合　美怜　（博物館主事兼学芸員）
中尻　貴之　（資料館主事兼学芸員）

次第

１　開会

２　博物館館長挨拶

３　会長挨拶

４　案件

（１）令和元年度事業実施報告について

（２）令和２年度事業計画について

（３）その他

５　閉会

【４　案件　（１）令和元年度事業実施報告について】

（事務局説明後、質疑応答）

新原会長：令和元年度博物館、史跡根城の広場、そして南郷歴史民俗資料館の事業実施報告を受けましたけれども、何か質問、ご意見はございませんでしょうか。お一人ずつお話していただきたいので、どちらかからお願いします。

工藤委員：資料１の「八戸 90 周年の歩み」ですけれども私も見ました。博物館に資料が寄贈されているというのを見て、改めて驚いています。全体的には情報もたくさんもらえて良いと思いましたが、八戸市の近代化を支えた工業関係のところがちょっと弱い、今一かと思いました。「100 周年に向けてこれからやっていこう」という、強い決意を述べておられましたので、ぜひその辺を補強して、100 周年の時には図録も出せるように体制を組んで、節目にふさわしい展示になってくれればいいなと思いました。

　それから、資料の 10 ページに「史跡根城跡整備基金の設置」とありますが、資料は読ませていただきましたが、具体的に何かという説明がなかったので補足してお知らせしていただければと思います。

新原会長：はい、事務局お願いします。

事務局：「史跡根城跡整備基金」としましては、今、既存整備、建物の改修等を含めた第２次基本計画があります。その中で復原建物の大がかりな改修工事が予定されているということもありまして、そういったものに対して整備費を積み立てていこうという目的で、今年度設置したものです。主な財源はいただいた寄附金、それからふるさと寄附金の方も、近年、御城ブームのなかで件数が増えてきていますので、積立てながら今後の整備のために資金として活かしていければと思っております。12 月に設置をしまして、積み立てをしている所でございます。

工藤委員：すでにいくらか積み立てがあるのですか。

事務局：今年度６月以降に頂いた寄附金と、ふるさと寄附金で 107 万円ほどあります。12 月以降のものは、これから積み立てていく予定です。

工藤委員：まだ少ないと思います。こういう遺跡建造物の修繕というのは高いお金がかかるもので、万ではなくて億のお金がかかると思っています。市民がそういうのを分からないと困るので、これからもぜひ、よろしくお願いします。

新原会長：はい、その他ありませんか。では、有馬委員。

有馬委員：特別展、企画展、限られたスペースですので、なかなか展示も大変だと思いますが、そういった制限がある中で、毎年創意工夫をして展示されている様子が分かって良かったと思っています。展示の中ですと、昔の写真の中に一緒に入って撮影できるものもありましたし、体験型のものもあって展示が良く出来ていると思って見ていました。

「クマと生きる」に関わることですと、火縄銃を触ってみるというのもありました。あとちょっと惜しかったと思うのは、クマの剥製は「触らないでください」になっていました。別の企画で触れるようなこともあったので、特別の日だけではなくて、触れるようなものをもう少し増やしていただければ良かったのではないか、という感想を持ちました。

新原会長：有馬委員から「体験的なものが増えてきて良かった。見る方としても楽しくて大変良かった」というご意見でした。

それでは川口委員、お願いします。

川口委員：屋内スケート場が昨年オープンしまして、氷切りの道具をお願いして出してもらったのですが、来館者の方が「懐かしい、懐かしい、これ昔よく見だったよ」という話をしていたりして、タイムリーだったと思います。ＹＳアリーナ屋内スケートリンクがオープンするに当たって、昔の長根堤の話と合わせて氷切りの道具とか、昔履いていた金下駄とか、昔のものを展示するコーナーがあっても良かったのではないかと思いました。

次のページ、「クマと生きる」の展示は興味深くて、私も２回おじゃまして見させていただきました。面白い企画だったので市内、全県、東北管内からも来て、けっこう良かったと思います。東北管内からも引っ張って来られるような規模の特別展になると、さらに八戸のＰＲにもなると思って見ていました。最後に、全国でクマの被害が話題になっていますし、クマの生活環境が変わってきているので、最近のことを引っ張ってくるような、問題意識を投げかけるようなものに繋がっていけば、子どもたちも興味を持ってくれるのではないかと思います。年に１度は、これくらいの規模の展示は、東北三県からでも引っ張って来られるくらいの内容にすれば良いのではないかと感じました。

八戸の災害ミニパネル展ですけれども、どこでやっているのかが分かりにくくて、規模が中途半端だった、案内表示も分かりにくかったと思っています。

次の「えと展」の「ねずみ」です。興味があって見に行こうと思っていたのですが、年末休みに行こうと思ったらもう休館に入っていて、休館の時期が大変長いような気がしました。そうなると休みに入った親子連れとか、会社員の人がせっかく「見に行こうかなあ」と思っても、ちょっと早く休館になってしまい、移行準備とかあると思うのですが、勿体ないと思っています。

５ページにある「90 周年記念シンポジウム」ですけれども、何人かで聞きに行ったのですけれども、ちょっと専門的過ぎた。一般の人向けに周知しているのですよね。発表する方には、かなり専門的な知識がないと分からないようなお城の構図とか、結構長く時間が割かれていた。歴史に興味があって、お城のことを分からないけど知りたいとかならいいのですが、市民の親しめるような内容にしていただければ、良かったのではないかと思いました。一緒に行った何人かの人からも「これだと学芸員対象になっていて、市民が行っても分かりにくい、理解が難しいじゃないの」という意見が聞かれたので、これも勿体ないと思っていました。

７ページの講座「短歌～しだれ桜をうたう～」ですが、あそこのしだれ桜は、知る人ぞ知る名所ですので、もう少しＰＲしても良いのではないか。様々な短歌をつくる会、観る会とか、観桜会のような催しにするとか、色々な角度から使えるのではないのかなと思っていました。私も学芸員さんから歴史を詳しく聞いたのですけれども、もっと歴史を知る機会になればいいと思います。

南郷歴史民俗資料館ですが、ここは非常に小さいけれども、南郷の企画展の内容はディープで面白くて、良いなあと思って何回か行きました。このあいだの「八戸の映画館と看板絵師」も大変興味深いもので、ただ資料館は中心部とかなり離れていて、なかなか知られていないというのが残念な気がしているところです。雰囲気もあるし、館内にある茶の間スペースがすごく雰囲気が良いので、そこを使って、飲食は出来ないのでしょうから、市民が昔の八戸の映像を見ながら、世代間が繋がるイベントがあると印象的な場になって、また次に行ってみたいとなり、資料館のアピールができ、次のイベントに繋がるのではないかと思います。映画文化が盛んだったというのは今の 10 代は知らないと思うので、高校生とか大学生と映画のテーマで語り合うような企画があると面白いかなと思いました。もう少し（資料館が）知られるようにするにはどうすれば良いのかと考えています。

新原会長：はい、ありがとうございます。川口委員から 90 周年展について、屋内スケート場がオープンしたということで、その辺の展示ことは考えていません

でしたか。

事務局：90 周年展は様々なテーマがございまして、全部のテーマに応えることは出来なかった。興味を持つ大切な機会だったのですが、なかなか全部はやれなかったので、100 周年の時には新たにテーマを考えたいと思っていました。

新原会長：はい。八戸は何で栄えたかというと、石灰、セメントです。その影響がすごく大きいです。そういうのもあまり知られていないです。100 周年の時は、産業別の展示をよろしくお願いしたいと思います。

「八戸は海から開け、やがて陸から開け…」という言葉があるから、八戸は漁業で栄えたと言いますが、本当は工業の力がすごく大きいですよ。その他は炭と大豆で、大豆は銚子の方に行っている。そのような歴史をうまく繋いで、100 周年はお願いしたいと思います。

クマの特別展は私も見たのですが、やはりマタギの資料があっても何か少なかった。ある程度マタギの資料があれば、全体のバランスが取れて良いのではないかと思いました。

後は、しだれ桜の話がありました。

川口委員からもう一つ。八戸は映画の文化があったのですね。映画館が多かったのが昭和 30 年から 40 年代。そう考えると成程と思います。鮫にも映画館がありました。今の有楽座です。そう考えると映画の文化もあると思います。

その他、何かございませんでしょうか。それでは、滝尻委員お願いします。

滝尻委員：確認したいことと、継続した方が良いというところと、感想を述べていきたいと思います。

１ページの 90 周年の展示でしたけれども、非常に体験型が多かった。今はビジュアル的な時代ですので、風景に自分も入って写真を撮るとか、八工大(八戸工業大学)とのコラボ企画が素晴らしいなあと思いました。そして iPad でクイズを解いたりするのは、この特別展だけで使うのではなく、またどこかで使えないかなと感じました。どうなのでしょうか。

事務局：現在、特別展の際に作っていただいたものに関しては、一度八工大にお返しして、特別展を通して皆様から頂いたご意見を、実際に操作したなかでの改正案を含めて、このようにした方が良いといった改善案をまとめて、年度末に一度戻してもらうという流れになっております。スペース的な問題もございますが、今後、何かのイベントの際など、アプリの中に入っているクイズや先人診断などは、中身の方をもう少し常設展示とも関連させながら、学校、小学生や八戸を知らない方が、常設展示を見られる際の１つの楽しみとして追加したいと考えております。どのような形で組み込むかということに関しては、今後検討して参りたいと思っております。

滝尻委員：ぜひ、博物館で活用していただきたいと思います。

次は２ページの方です。クマ展ですけれども、これも遊び心があって企画も良くて、子どもから大人まで楽しめたと思います。来館者に対してキャラクターの持ち物、クマを持ってくるとプレゼントをくれるとか、そういう企画もありました。あれも子どもが何かをもらえるというのがあると、子どもたちが喜んで行きます。大人もそうですけれども、もらえるのは楽しいと思う。それから（４）の「クマ限定ぬいぐるみおとまり会」、これも楽しい企画だと思いました。これも今までにないアイディアで、学芸員の方で考えながら実施している。本当にこのクマ展というのは、大人から子どもまで楽しめる企画だと思いました。大人というのは（1）の共催事業の「共生（ともいき）」という新たな世界による、ただの歴史講演会ではなくて別な面からの講演会で、これもまた私も勉強になることがたくさんありました。

８ページの４番です。文化財の収集・保存・調査ですが、90 周年のシンポジウムについて、先ほど川口委員から専門性が強過ぎるというお話があり、確かに私も感じましたが、おもしろいのは「シロメシ」（弁当）で、とても良かったと思います。食の体験型ですよね。人に良いと書いて「食」、本当に知ってもらうためには食べることから始まる。良く知ってもらえると思いました。

次は南郷についてです。11 ページのシャトルバスは気になりました。シャトルバスを４回も出して８名となれば、バスでなくても自家用車で迎えに行くとか、そちらの方が燃費を考えれば良いのかと感じました。

それと最後に一つ。まち文（まちづくり文化推進室）の方で市民アンケートを取っているのですが、そのアンケート結果を見て驚いたのが、南郷の資料館の方を知らないと答えているのが 60％いるのです。こんなに小さいながらもこんなに良くやっている館はそうないと思っているのだけれども、これは中高生も入ってのアンケートです。結構、縄文館は良いのです。縄文館、博物館を知っているというのは 80％です。南郷を知らないというのが 60％ですから、南郷をＰＲしていくのは今後の課題かと思います。

新原会長：はい、ありがとうございます。シャトルバスの件ですけれども、これは 10 時出発で、資料館は何時出発なのでしょうか。

事務局：市庁前 10 時出発で、11 時には着きます。そこから 1 時間程度見学しまして、また戻るという形になります。午後は 13 時に出発して、南郷に行ってまた同じように戻る、となっております。

新原会長：そうすると滞在時間は 1 時間ですね。所要時間は 1 時間程度です。大丈夫ですか。早ければ 30 分でパーッと見る人も多いのですが、私の意見ですが少ないかな。これは市議員が乗る 24、25 人乗りのバスですか。それにしても少

ないですが、シャトルバスが出るということで何人か滞在している。資料館だけではなく他に寄るコースを作るなど、その辺はよろしくお願いします。

それでは、鈴木委員お願いします。

鈴木(善)委員：90 周年の事業に関しては皆さんからでました。(特別展「クマと生きる」について）マタギの話はもっと欲しいと思います。できればそこに、宮沢賢治のクマの話とかを朗読してくれたらもっと楽しかったかなと思います。個人的なことですけれども、30 数年前にやかんのお湯をかぶって足にすごい火傷をしたのです。その時にクマの油をお客さんが持ってきてくれたので、それを塗ったら今は跡形もないです。手に入るのであれば、クマの油とか肝があればすごく話題性があると思う。実際にクマの油は効きます。

先ほどクマのぬいぐるみという話が出ました。「えと展」の来年は牛ですが、「牛のおとまり会」というのを考えても良いのではないでしょうか。そうすると若い人たちや子どもも見に来ると思う。小学生以下が来るということは必ず親が付きますから、絶対来館者が増えるのではないかと思いますがどうでしょうか。

「シロメシ」は食べてみたかったと思いましたが、どうしても予定が付かなくて伺えませんでした。

南郷の件ですが、写真展は、自分も写真を撮る者として、実際あの中の何点かは、東京の恵比寿の写真美術館でお金を払って見ていました。すごい方々なので、来ないなら来させてみようという努力をしても良かったのではないか。私は満足で、もう少しあれば嬉しかったのですが、スペースもあれだけあれば十分で、このようなものがここで見られるなんて、私は嬉しくてたまりませんでした。

次は映画展のことですが、先ほど新原会長から、映画館がたくさんあったというお話があったように、湊町の本町や柳町にもありました。それから有楽町にもありました。小中野や街の方でも、今は駐車場になっている所にオリオンがあり文化さんがありました。それに付随して、写真を持っている方から、ここにこういう映画館があったと提供していただいた。先ほども川口委員がおっしゃったように、八戸の映画との関わりが深くなったのではないかと思いました。

もう一つ、シャトルバスの件ですが、新原会長は虚空蔵様とおっしゃいましたが、「舘のやかた」や「朝もやの館」に寄るとか、道の駅に寄るとかのコースをちょっと付けてくれれば、観光も兼ねて乗ってくれる人が増えるのではないかと思います。

新原会長：よく南郷の道の駅まで行く人はいるのです。そういうのを考えると資

料館だけではなく、「朝もやの館」なり虚空蔵様なり、史跡とかそういうものがあると良いのかもしれません。例えば上から見ると、島守は盆地だから景色が良いわけです。そのようにコースを回遊するシャトルバスを出してくれたら、もう少し楽しくなるのではないか。そうすれば（１日）１回で良いのではないか。道の駅でご飯を食べさせて何時に出発ですという、そんな企画も面白いのではないか思います。そういうのをやればもっとシャトルバスを利用する人が増えるのではないかと思っています。

はい、では鈴木(規)委員。

鈴木(規)委員：「八戸 90 年のあゆみ」で、和井田登さんのことが出ていました。和井田さんによって八戸市民の昔からの生活の様子が写真に撮られて、写真集も出されている。小学校の方で来年度から新しい教科書になりまして、３年生の社会科学習の中に、新しい単元として「八戸市の様子と人々の暮らしと移り変わり」という、八戸市を題材として学習することになっていますので、それに和井田さんの写真がとても良い、貴重な資料となります。できれば教科書とタイアップする形で展示があっても良いのかなと思っていました。

それから和井田さんの写真は、博物館にいくつか寄贈されていると思うのですけれども、その目録とか資料、データがあるのでしょうか。

館長：写真集は一つ出しているのですけれども、２冊目を出そうとしているのがあるのです。リストは全部あったのですが、ちょっと公表する機会がなくて今まで目録がなかったのですけれども、それも考えなければなりません。

鈴木(規)委員：実は八戸市で副読本を作らなければならなくて、そのときに活用させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

また、八戸市の話ですけれども、昨年度より２月 17 日が「えんぶりの日」ということで、八戸市の小中学生が学校お休みになっています。今年月曜日だからどうなるのだろうと思いましたが、月曜日は特別臨時開館ということで、学校とリンクされていてとても良い。子どもたちも見に行くと思いました。よろしくお願いします。あと、それに合わせて何か企画展みたいなものがあれば、ますます良いかと思います。

ホームページも見させていただきましたが、学校の先生方が使いやすいようにホームページもありますので、その辺も学校に周知していただけると良いと思います。

最後ですけれども、「博物館だより」の 12 月号に「八戸市博物館スクールプログラム」というのがございまして、中身を見ましたらすごく子どもたちが興味を引きそうなものがたくさんありました。ちょうど４月 15 日に、小学校に社会科の先生方が研究会で集まる機会がありますので、その時に一枚もので渡す

と、各学校に周知できるのではないか思います。もしそういった資料がありましたら、私の方まで送っていただければ各校に配付することができますので、よろしくお願いします。以上です。

新原会長：今、小学校で地域学習ということが出ましたけれども、博物館は前から博学連携というのをやっていて、それで博物館と学校との連携というのをしていて、出前講座とかその頃から子どもでも分かるようにということで作っています。ぜひ活用していただければと思います。先生方にもぜひ宣伝していただければと思います。よろしくお願いいたします。

はい、館長どうぞ。

館長：イベントのお話しだったのですが、えんぶり期間中、毎年恒例ではありますが、えんぶりの歴史とか内容が分かるような、小さな特別展をやっていましたのでお知らせします。

新原会長:「えんぶりの日」は休日です。ぜひ見に行っていただきたいと思います。

和井田さんの写真は全部いただいているのですね。

館長：はい。データベースみたいなものになっていますので、いつでも使えます。

新原会長:南郷の図書館に、中里進さんからいただいた写真とか本があるのです。それもやはり貴重なもので、八戸の三社大祭の古い写真とかあるはずです。本当は博物館で欲しい資料なのですが、ただ南郷の図書館にあるもので、市の移管替えなどでも良いのですが、考えていただければと思います。確か中里さんの良い写真があると思います。

滝尻委員：今、小学校のえんぶりの話が出ていましたけれども、博物館で古里館長の講演もあるという話の他に、銭太鼓づくりの体験学習もあるようです。それをぜひ小学校の方でも。そうですよね。

事務局：銭太鼓づくりは、すでに２月４日に開催したのですが、参加者がなくて、やり方を次回考えなければならないと思っているところです。

滝尻委員：（委員の）鈴木(規)校長先生に直接言った方が良いかもしれませんね。そうでしたか。

新原会長：小学校で館長がえんぶりの講話をやっていますので、ぜひ活用していただきたいと思います。

鈴木(善)委員：今のえんぶり展ですけれども、古里館長には去年のうちにお話はしましたが、湊中学校には、かつて 50 年前まであった柳町えんぶり組の烏帽子があるのです。それは八戸の方々はほとんど見たことがない、立体的な浮き彫りになったような烏帽子です。今、湊の方では、復活に向けて頑張っているところです。去年 11 月にお披露目会をやって、今年は無理だけれども来年は参加したいと言っていました。今年は無理でも、来年は湊中学校の指導室に飾って

ある烏帽子を借りてきて、ぜひ皆さんに見ていただきたいと思っています。皆さんが見ると「えーっ」と驚きますので、ぜひお願いしたいと思います。

新原会長：烏帽子は、湊中学校にあるのですか。

鈴木(善)委員:柳町えんぶり組の烏帽子です。湊中学校に展示してあるのですよ。

新原会長：いつ寄贈したのですか。

鈴木(善)委員：秋山皐二郎さんの息子の市会議員の方が、湊中学校に資料室を作りたいということで、いろいろ回って寄贈してもらったのだそうです。私たちの頃にはまだなかったのですが、ここ 20 年くらい前から展示してあります。

新原会長：そうですか。ぜひ見たいものです。それでは、田端委員。

田端委員：私は、市制施行 90 周年の記念特別展はおもしろいなあと思いました。私は、市制施行 90 周年と言っても、市の成り立ちについて、状況が分からない中で色々な立場の方々が話し合いをしたり、市長さんにこれはどうだろうと提案したり、自分が病気だから断るという手紙を展示していたり、こういうような、人々が皆で作り上げていくという姿が、すごく篤き良き時代だったのだと感心して見ました。

また八戸工業大学とのセッションで、私も八戸の児童公園や、今の地震でなくなった所とか街並みをとても懐かしく思い、写真を撮らせていただき、楽しませていただきました。

「クマと生きる」とか「えと展」では、動物と人間とが共に生きる姿というか、クマの油や肝とかはあったと思いますが、良いなあと思いました。初めこれを試した人はどんなものなのだろうか、薬になる、ならないは誰が決めたのだろうか、初めて食べた人は勇気があるなとか、そのようなことを感じました。

南郷の企画展では引き込まれました。本当に楽しく見させてもらいました。今の子どもたちにみられない、一つの道具を囲んで皆が集まって遊ぶ姿は、昭和の良き時代でもあったと感じました。今の生活の中に、失われたものというのは、ちょっと知られることがないのかなと感じました。

新原会長：ありがとうございました。

加藤委員：先ほど委員の皆様からお話がありましたが、特別展でも企画展でも、今年も楽しませていただいてありがとうございました。

特別展「クマと生きる」を楽しく見させていただきました。ご存じと思いますが、平成６年に三戸出身の葉治英哉（はじ　えいさい）という人が、「マタギ物見隊顛末」という小説を書いて第１回の松本清張賞を受賞しました。内容は、戊辰戦争の時に、秋田県の阿仁マタギと三戸町斗内のマタギが右往左往するという話です。素晴らしい小説ですが、戊辰戦争の話なので明治に近いわけです。マタギの伝統はごく最近まであったのかなと思います。三戸と八戸は違うのか

とも思いますが、マタギに関しては個人的にはすごく知りたかった。

「根城・再考」のシンポジウムがありまして、専門的な話で難しかったですが、城郭協会の加藤理事の基調講演に感動しました。「中世の史跡を復原するのがいかに難しいか」という話だったのですが、基本的には国の方針では復原させない、今の技術ではどういう建物があったかわからないが、八戸の方はそれを例外的に復原した。中世の復原として、価値から言えば日本の国で２つだけ、首里城と根城だけだという話でした。首里城は焼けてしまいましたが、いかに八戸の人は頑張ったか、遺跡を掘って復原したと言ってくれた訳です。ここに来たからサービスしたわけではなく、専門家ですので、きちんと説明したのですが。お客さんは確かに天守閣もない城ということで、どうしても市民の方もピンとこないところがあるかもしれませんが、その辺で我々も勇気を得た。天守閣がない城もたくさんありますので、根城の復原というのは、日本の国では例外的な、とても大変な文化事業だということを改めて認識したわけです。何とかこれを伝えたいと思います。

それから、博物館の事業と直接関係ないのですが、根城保存会のほうで、去年、南部氏に関わる城の「御城印」というものが、聖寿寺館とか三戸城とか久慈城、種里城まで出来た。その骨折りを博物館でやってくれた。お城同士の連携ということで大きな働きだと思います。発表にはなかったのですがありがたいことだと思いました。

市民講座の中で糠部三十三札所の講演会がありましたが、内容も素晴らしいものでした。すごい人数で、入りきれない人数でした。民間信仰に対して興味が強いということもあるのでしょうけれども、内容によっては、これだけ市民が来るのだということで驚きました。これはぜひとも続編が欲しいと思いました。

広場に関しての感想は、去年の桜は大変きれいで、何年もガイドをしていますが、青空にちょうど身延の桜が見事に合っていた。最高の桜で、本当に市民全体に見せたいと思ったくらいです。去年最高だから今年も最高になるとは限らないけれども、見事なしだれ桜を大いに宣伝していきたいと思いました。

南郷は写真、映画に関することです。私は強烈な映画ファンですのでありがたいです。南郷はおもちゃとか映画とかやってくれて、素晴らしい内容です。本当は市民の皆さんに見てもらいたいのだけれども、実はスペースの問題もあります。写真家の意見を聞くと、全部展示できなかったそうです。映画のポスターも貼るところがなく入れ替えもした。スペースを言えば博物館も南郷もきりがないですが、でも素晴らしい企画だったと思います。大変ありがとうございました。

新原会長：しだれ桜がちょうど満開の時に行ったのですけれども、本当に素晴らしかった。

よろしいでしょうか。それでは案件（２）に進みます。

【４　案件　（２）令和２年度事業計画について】

（事務局説明後、質疑応答）

新原会長:令和２年度の事業計画ですね。何かご意見ありませんか。はい、鈴木(善)委員。

鈴木(善)委員：６ページの第三章に豊作祈願というのがあります。そこのところで、私が去年の２月に「月刊ふぁみりい」に「なぜ烏帽子を被るか」という理由を著したのですが、そういうのをこれに向けて検証してもらえないかなと思います。今まで誰も烏帽子を被ることを言ってこなかったのです。私の師匠である正部家先生でさえ言わなかったことを私がいうのもなんですが、「さるぼぼ」がなぜ旗に付くか、ジャンギも含めて全てそれで説明がつく。「けがじ」、「やませ」に対抗するための烏帽子だということをちょっと検証してもらえないかと思います。

新原会長：忙しいと思いますが、ぜひ調査をしていただきたいと思います。その他いかがでしょうか。はい、どうぞ。

滝尻委員：来年度のことだということで、この資料とは別ですが、鈴木(規)先生にちょっと質問です。

令和に入りまして、平成の八戸かるたが古くなったということで、令和の八戸かるたを制作するという話を聞いているのですが、何時頃それができるのか、それが出来たら博物館でお知らせできればと思っていました。どうなのでしょうか。

鈴木(規)委員：それについては担当外で、どこで作ることになったのか私には情報がないのです。

新原会長：平成の八戸かるたは、「はちのへ愛の一声」の関係で、生徒指導の所で作って、その時に栗村先生とか、そういう人が中心になって初めて作ったものなのです。いつだったかな。

滝尻委員：平成元年ではないかな。平成になったのでその時に八戸かるたを作った。

新原会長：「愛の一声」の時に作ったのです。生徒指導の部署、昔八戸市に青少年課というのがあって、そこで作ったのです。

滝尻委員：ちょっと、頭に入れておいていただければと思います。

鈴木(規)委員：帰ったら聞いてみます。

新原会長：聞いてみてください。あれは読みが五七五ではないので、もう少し分かり易くなっていれば良いと思います。やはり古いものもあるのでそれを検討する。それは博物館の仕事ではないですけれども。もし情報があったら委員会の方でもあげていただければと思います。

館長：古い方のかるたは、額に入れて飾っていたときがありました。

滝尻委員：令和が出来たらお願いします。

新原会長：他にありませんでしょうか。はい川口委員。

川口委員: 7ページのケカジ展の企画ですが、「隅の観音」３Ｄ計測データの作成、これはどういうことでしょうか。

事務局：博物館の近くにあります「隅の観音」という小さな祠の姿をした石碑ですが、「悪獣退散（あくじゅうたいさん）」という文字が刻まれているもので、特に文化財指定されているものではありませんが、風化が進んでいます。根城の博物館から近い位置にあり、場所を知ってらっしゃる方や見たことがあるという方も多いかと思いまして、八戸工業大学の方で一時的な記録ということもありますが、３Ｄの形でデータをとっていただきまして、それを展示室の方に持ってきて見ることができないかと考えています。ケカジに関わる資料ということで常設展示のほうでも若干紹介はしていますが、写真で出すに留まっているので、もう少しリアルにお見せ出来ないかと考えまして、今相談させていただいているところです。

川口委員：ありがとうございます。

加藤委員：猪ケカジの碑ですか。城内ですね。

川口委員：知る人ぞ知る場所にあるのですね。

滝尻委員：イメージとすればレプリカのような感じですか。

事務局：理想としてはレプリカの形を取りたいと思いますが、まずデータが作れるか、経費、材料費の問題もありますので、素材をどうするのか、形をどうするのかという課題もあります。まずデータを取っていただき、パソコンの画面上で回せる、拡大して見るようなところを１段階目としてやってみたいと考えております。

滝尻委員：できれば、長流寺の青面金剛像が常設展にレプリカでありますので、ああいう形で残せれば非常に分かり易いと思います。

新原会長：隅の観音は向かい側の建設会社の社長さんが、観音様が壊れていたのをみて修復してくれたのです。私が博物館にいる頃に無料で直してくれました。

館長：寄附を示す札があったような気がします。

新原会長：ケカジの碑もそういうことで、よろしくお願いします。

いろいろ、たくさん出てきましたけれども、体験型の展示が多くなって、た

いへん展示を工夫していると思います。それから八戸工業大学とか、千葉高校とか、そういう他の団体とコラボして研究をしたりしているということは、大変良いことだと思います。今後いろいろなところに情報を発信していただきたいと思います。博物館はそう考えると映画文化のこと、クマのこと、スケートのことや産業の問題、たくさんあると思います。100 周年の時には、それらを網羅して素晴らしい展示をお願いしたいと思います。

後ないでしょうか。はい、有馬委員。

有馬委員：これまでですと博物館、美術館は、原則的には撮影禁止のようなムードがあります。最近は、カメラの性能が良くなってきたこともあるのでしょうが、どちらかというと「どんどん撮影してください」、「ここはちょっと勘弁してください」みたいに、一部的には撮影はだめだけれども、「原則ＯＫですよ」というところが多くなってきています。そこをきちんと入口とか受付とかに明示していただかないと、カメラを持ってきているが、まずいのかなあとカメラを車に置いてきた方もいるのではないか。都会から来る方だと、荷物が多いとコインロッカーにカメラを置いてくる人もいるかもしれない。それが展示室に来てみると撮影ＯＫですか、ということになるかもしれませんので、そこは親切に分かるようにしていただければ思っていました。

事務局：写真撮影は原則的にはＯＫで、フラッシュをたかなければ大体黙認しています。受付の後ろなどに掲示しておりますが、より目立つように明示したいと思います。

有馬委員：分かり易いように、表示をしていただければと、お願いしたいと思います。

新原会長：はい、よろしいでしょうか。最後に「（３）その他」に入ります。

【４　案件　（３）その他】

（特に無し。）